



発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F
災害対策委員会 TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目次

1. 大阪大会報告・感想
2. 現地感想文
3. 災害対策委員会会議議事録
4. 災害対策委員会からのお知らせ
5. 事務所感想文

**「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」
完成しました！
皆さま、ぜひご購入のうえ
ご覧ください！！**

詳細は、
“4. 災害対策委員会からのお知らせ”を
ご参照ください



*** 1. 大阪大会報告・感想 ***

5月16～18日大阪市で第61回公益社団法人日本医療社会福祉協会全国大会・第33回日本医療社会事業学会が開催され、以下の災害支援関連プログラムが行われました。

◆シンポジウム

「災害から2年間を経て、変わらないもの、変わったもの～1年前と同じ視点から検証する～」

◆分科会「東日本大震災 災害支援活動報告」

◆自主企画「災害支援活動について語り合おう！」

他に、ポスター掲示、書籍販売

*** 第61回全国大会 災害から2年、今年も全国の仲間と！

東京都 武山ゆかり

懐かしい方々にいっぱい再会できました！

あちこちで声を掛けていただいたり、『支援のバトンⅡ』販売テーブルに来て下さったり、全国のMSWの繋がりがほんとうに実感出来た今年の大会でした。

自主企画「災害支援活動について語り合おう！」は、MSWの本音が語り合われた時間でした。被災地での活動を経験した方も、行きたいと思いながらも「私なんかが役に立てるだろうか？」と不安を持ちながらも被災後の現地や生活から目を離せない方も、MSWとして災害被災地の方々の生活復興には支援が必要だと直感しています。苦悩に共感する力を持っていることが、この自主企画に足を運ばせ、自分に何ができるか、何が出来たのかを確認したいと思っていることで、よくわかりました。なんと自分の心に誠実な集団なのだろうと、強く感じ、この仲間たちを頼もしく、誇らしく思いました。

被災地では、MSWとしてのアイデンティティーも力量も、自分の感性も、そして何よりソーシャルワークの原点となる、添いきる力も、自ずと磨かれ、研ぎ澄まされて行きます。歴史の断片であっても、後の世に長く、大きな影響を与える大災害を、感覚としてしっかり身に覚えさせることは、その人の生き方を大きく左右させると実感しています。

昨年5月に石巻市雄勝の仮設住宅を、1日かけて走り廻り、すべての団地に「MSWをご存知ですか？困ったときには相談を！」のチラシを投入して歩いた新潟県のMSWは、被災地で出来る支援に発揮できる力の大きいことを、北信越のMSW研究会で語っています。大阪から来た新人ワーカーさんは、被災地の若者の「かっこいいものを着たい！満足したい！わかってくれる人たちと話したい！」という思いが、フリーマーケットやカフェを実現した力に逆に励まされ、力づけられたと話していました。1149人が集った「大阪大会」のそれぞれのプログラムや集う時間の中で、多くの仲間の話から、懐かしい笑顔から、魂(たましい)が揺さぶられる思いが、何度も胸の中に湧き上がり溢れました。宮城県のMSWが岩手の仲間が、福島ワーカーが、去年より、少しずつ元気になってくれていたのも、嬉しいことでした。

つながる ひろがる ささえあう を実感した大会でした。

*** 自主企画「災害支援」報告

豊島区医師会 豊島区在宅医療相談窓口 中辻康博

今回、日常業務の分科会報告、自主企画「災害支援」のファシリテーター役のため、大阪学会に参加してきました。

自主企画「災害支援」については、なかなか事前打ち合わせに参加できずに当日を迎え、多少不安がありましたが、いざ本番になると会場がたくさんの人で埋まるほど、皆さん関心を持っていただき大盛況でした。

協力員活動を行った 2 名の SW からの報告後、6 つのグループに分かれ、「被災地支援」について意見交換。現地に行けなくてもできること、現地に行く心がまえ、協力員として行く前の心境、現地で感じたこと、活動を終えてから感じたこと、様々な視点でみなさんの熱い想いを語り合うことができました。その中で、「どのような形でもいいので、まず現地に行き、現状を知ることが大事」との意見が印象的でした。震災から 2 年以上過ぎ、時間の経過の中で協会の SW の支援の内容も少しずつ変化しつつあることを、現地担当者からの(現在の活動内容)報告で知りました。まだまだ現地に行く必要性を強く感じ、少しでも現地のお手伝いができるように、定期的に訪問していきたいと思っています。

今回の学会は地元大阪での開催ということもあり、学生時代からお世話になった方々、元職場の同僚、そして石巻滞在活動中に全国から駆けつけた全国の SW の方とも再会する良い機会となりました。

*** 災害シンポジウムに参加して

現地 久保木美由紀

震災後 2 年目の 1 年間は住民をまた、取り巻く環境やニーズに変化が見えてきた時期であり、自宅再建等により仮設住宅を出て行かれる方もいれば、生活の先行きが見通せず孤立や不安を抱えておられる方の住民間の復興の差が出てきた時期でもある。今後の生活の見通しが立ちにくい方に関しては、その差がより大きく感じられ孤立や不安感に繋がっていることも石巻だけでなく、岩手、福島等共通してみられた。そのような中で被災された各地域で様々な取組みが検討されていた。住民ニーズが複合化、深刻化していく中で自立支援に向けて、専門職チームの設立や設立を検討されている地域が多く、多職種の中で業務を進めていく SW に対する期待も高いと感じ、私たちは、外部支援者として地域住民や社会資源の自立支援を支援していくためにどうすべきかを考えさせられた。

今後、震災はどの地域でも起こる可能性があり、自分の地域で震災が起きたときはどう対処すべきが、先の震災から学び、日常的に地域で話し合うことが必要だろう。そのような意味でも、この震災に関心を持ち続けることは非常に重要であると思う。

*** 『支援のバトンⅡ』発売開始

佐藤 杏

大阪大会でのお披露目を目指して編集を進めてきた『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』が5月16日に会場の大阪国際交流センターに届き、大会受付デスクと同階で販売を始めました。石巻現地担当者の協力も得、講演やシンポジウムが行われた大ホール入口付近にもサテライトを設置し、3日間で支援のバトンⅠは44冊、バトンⅡは179冊売り上げました。

「感想が載っているって連絡をもらったんです」と眺める方、掲載されている写真を見て「懐かしい！」と仰る方、仲間のために複数購入される方、売り子の巧みな話術で「大会限定セット」（バトンⅠ・Ⅱに日本医療社会福祉学会発行本と石巻の方が作ったミサンガを付けて3000円）を購入された方…皆様ありがとうございました。

まだお求めでない方は是非ご購入ください。売り切れ必至です！





女川サプリメント②
— 現地石巻 photo —

*** 2. 現地感想文 ***

*** 5/28 久保木 美由紀 (現地担当)

昨日は NPO 法人の方々と意見交換をしている中で様々なことを教えて頂きました。そのことで行き詰っていたケースのヒントを頂いたり、ネットワークで支えていくこと、繋がりを作っていくことを体感できた1日でした。

*** 6/4 久保木 美由紀 (現地担当)

こちらは連日快晴に恵まれさわやかな陽気です。
つつじやシロツメクサがきれいに咲いています。
被害が大きかった南浜町にも一面シロツメクサが咲いています。
がれきが減り、市立病院の解体も始まり、直後には考えられなかった風景がみられます。

*** 3. 災害対策委員会会議議事録 ***

第1回 災害対策委員会会議議事録

2013.5.12(日) 9:00~11:30

(敬称略・順不同)

出席 笹岡・山田・梅崎・篠原・佐原・富永・畑中・佐藤・中川・金子

欠席 相原・西田・武山・飯島・東・久保木・坪田

1. 災害対策委員会について

(1) 組織構成(順不同)

① 委員会のメンバー

委員長: 笹岡

委員 : 篠原・飯島・相原・梅崎・西田・山田・久保木・富永・畑中・武山・佐藤・東
オブザーバー: 佐原(会長)

② 組織体系

協会社会活動部の下部組織とし、社会活動部部長が委員を兼任

③ サポートチームのメンバーと各支援内容について(メンバー: 社会活動部担当の理事)

・サポートチーム活動報告

④ 会議開催について

基本的には2か月に1度の開催とする

(2) 委員会の目標・目的

- 全災害に対応する委員会とするが、現時点では東日本大震災への支援活動を主目的にする
- 復興目的であり、未来に発生予測される災害に備える
- 三年目を迎えた災害支援活動の目標は変えず、事業縮小もなし

(3) 財政面

・災害対策本部の支援活動について中川事務局長経理からの報告
(参考資料1 添付)

2012(平成24)年度

・決算報告及び監査報告

- 収支計算書

- 災害支援活動事業

・災害支援事業 収支月次推移表

(参考資料2 添付)

2013(平成 25)年度石巻災害支援要員計画

-財務担当委員(社会活動部部長が担当)、笹岡、中川で財務について協議

- ・災害対策委員会の支援活動予算について
 - 石巻市からの収入を基本的予算とする
 - 協力員への経費支給の見直しを検討中

(4)人事

●職員

【現地】

- ・責任者:久保木美由紀
- ・担当者:畑中良子

石巻市臨時職員として週 3.5 日虐待防止センターに勤務(DV・高齢者・児童・障害者を扱う)

／当協会職員として週 1.5 日勤務

【事務所】

- ・金子小夜子(週3日 月、水、金)

●出向

【石巻社協】

- ・富永千晶(1年契約)

災害対策課地域福祉コーディネーター

●協力員

【現地】

- ・2013 年度の募集概要

- ・1 日あたり上限 2~3 名

- ・期間は原則として移動を含まず中 3 日以上(特に初回参加者は 3 日以上)

- ・大阪協会より 5 月から月 2 名の派遣開始

【事務所】 月~金 10 時~17 時

2. 現地支援活動について

<公的機関及び各外部機関との対応>

笹岡委員長が担当

<活動報告>

(参考資料)2月・3月「月報」「日報」

<活動内容/活動形態>

－久保木:前年度 RCI ケースの引継ぎ、支援活動参加協力員の指導・管理

－富永:社会福祉協議会地域福祉コーディネーターアドバイザーとして出向

－畑中:市役所虐待防止センター、協会支援活動兼務

<活動場所>

- ・4 月から石巻市湊地区を拠点としている

<RCI 業務について>

- ・個人情報管理や研修依頼に関しては RCI 責任者と笹岡とでその都度協議する

<記録データ保管/提出物について>

- ・2013 年度は協会独自にアクセスでデータベースに保存する計画が進行中
- ・石巻市への提出物(日報/月報)についての要望あり
担当者から分かりやすい書式を要望され、委員会メンバーが参考資料を収集・提示し、表記を簡潔にする方向で検討開始
- ・現時点で毎月の延べ人数は、日報を基に資料は作成している

<東京事務所との情報共有>

- ・シュガーシंकを採用しているが、情報管理対策として定期的にパスワードを変更する
- ・閲覧者の範囲を限定する

<年報の作成>

- ・2012 年度分作成済み
 - －大阪大会総会で配布:200 人分印刷
 - －ホームページで公開

3. 事務所支援活動

(1)協力員マニュアルの配布について

- 2013 年度は初回活動参加で応募された協力員へ公文書とともに郵送する。
- マニュアル(オリエンテーション資料)及びホームページでの宿舎等の案内に関しては 2013 年度用としての追加変更予定、まだ手つかず(石巻現地と調整中)
- 食費補助の欄は削除
- 交通費請求については、追記予定(1-(3)財政面参照)

(2)災害支援ニュース発行について

- ニュース担当委員を明確にし、ニュース編集協力委員と事務所金子と協議しチェックする
原稿チェック)笹岡委員長・災害担当理事(社会活動部部長)・山田
 - 現在、隔週で発行しているが掲載する記事や写真が不足する場合あり
今年度はサポートチームメンバーの支援活動の感想や意見等を掲載する予定
また現地の様子を知らせる写真を可能な限り掲載する予定
 - ニュース担当を群馬県から大阪協会へ移行予定(大阪大会後)
- *FB は現地畑中が up していく予定

(3)「医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」について

バトンⅡの印刷部数は 1000 部、単価は 1000 円。

大阪大会から販売

※Amazon へのアップについては大阪大会後

※ISBN の取得済み

(4)「医療ソーシャルワーカーの支援のボタン I」販売について

- 書籍販売;東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のボタン I』
※(2013/3 月末現在)在庫 1485 冊 (販売 1107 冊・寄贈 408 冊)、北海道協会 400 部含
※Amazon へアップしました(2013/05/10)
※ISBN の取得済み

(5) 大阪大会への準備

- ①自主企画
(参考資料)災害支援活動について語り合おう!
- ②ポスター掲示
依光作製中、完成間近(依頼済み)
- ③演題発表
久保木:予演会検討
- ④5 月 17 日 災害シンポジウム(コーディネーター:笹岡委員長/活動報告:久保木・富永・畑中)
- ⑤石巻市の方が作ったミサンガ販売
山田・畑中が担当
現地の方(NPO 職員)も売り子として参加されるか否か打診する

4. その他

- 山田報告:
 - PCAT が研究をさかのぼって遊楽館の活動について検証予定(林健太郎医師)
遊楽館は福祉的避難所だった。福祉だけでなく医療の伴った新しい形の避難所の必要性を発信
日本医療社会福祉協会に共同研究者として打診があった⇒笹岡・佐原に確認し、山田の名で申請
個人ではなく協会という肩書で協力
市の個人情報をごどのようにしていくか検討要

5. 次回予定

- 7 月 20 日 (土) 13:00~15:00 予定
- 現地からは基本的に1名は業務として参加

*** 4. 災害対策委員会からのお知らせ ***

【1. 現地職員急募状況】

現在、応募者と調整中

【2. 協力員募集】

*** 平成 25 年度の経費お支払に関するお知らせ

交通費: 新幹線代を上限とし、飛行機関係は早割などを利用し、合理的な方法でご来石下さい。

宿泊費: 協会では宿泊施設を用意しております。

ホテルにお泊まりになる場合は自己負担でお願い致します。

食費: 今年度は支給対象外とさせていただきますのでお支払いできません。

*** 現 地

現在、1日あたり上限 2, 3 名で募集しております。

中 3 日以上、なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策委員会までお気軽にご相談ください。

但し、初回参加の方は活動日数を3日以上でご参加お願い致します。

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

*** 事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1~2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力をお願い致します。

【3. 災害対策委員会】

次回会議予定 7月20日(土) 13:00~15:00 於協会会議室

【4.書籍販売】

全国の MSW でバトンをつないだ当協会の活動の軌跡第 2 弾

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』

発売開始となりました。A 5 版フルカラー141 頁 定価 1,000 円(税込・送料別)
平成 23 年 10 月から平成 24 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地ソーシャルワーカーとの協働の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の金額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

引き続き、発災から平成 23 年 9 月 30 日までの活動記録『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』の販売も行っています。

*** 注文用紙はホームページからダウンロードできます。

I → http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_PDF/47_Img_PDF.pdf

II → http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_PDF/101_Img_PDF.pdf

【5.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【6.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



*** 5. 事務所感想文 ***

*** 5/24 尾方仁 (西群馬病院)

5月18日にも東北に大きな揺れがありました。復興に向けての心が折れないことを祈っています。自分ができることを、できる範囲で続けていきたいと思えます。

*** 6/5 金子 小夜子 (災害対策委員会事務所)

5月から協力員の方々が支援活動に参加してくださっています。リピートされる方と初回の方が半々くらいです。長期に渡って支援することの難しさを思えます。

<編集後記>

大阪大会の感想をいただき、全国の仲間が一堂に会しての盛り上がりや熱気が手に取るように感じられます。参加されたみなさんのあふれるパワーがニュースを通して伝わることと思えます。

(編集担当 群馬県 老年病研究所附属病院ソーシャルワーカー一同)

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 6 月 7 日 第 3 卷 4 号
作 成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会



上毛カルタ：(れ)きし(歴史)に名高い 新田義貞

(群馬県 太田市)